

# 機能水ニュースレター No. 107

2022年5月6日発行 一般財団法人機能水研究振興財団 編集担当 堀田国元・中藤誉子・清水雅俊

協力: 日本機能水学会・(公財)レイ・パストゥール医学研究センター

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-20-8 Tel: 03-5435-8501, Fax: 03-5435-8522

E-mail: [kinousui-zaidan@fwf.or.jp](mailto:kinousui-zaidan@fwf.or.jp) ホームページ: <http://www.fwf.or.jp>

## 報告:

- 第 23 回日本口腔機能水学会学術大会 . . . . . 1
- 市民公開講座「ウイズコロナ生活と感染対策」 . . . . . 2
- 第 27 回日本医療・環境オゾン学会学術大会 . . . . . 2

## お知らせ:

- ifia JAPAN 2022 . . . . . 3
- 第 10 回国際レジオネラ会議 . . . . . 3
- 消費者庁: クレベリンに対する改善命令 . . . . . 4
- 日本電解水協会「電解水ガイドライン 次亜塩素酸水編」 . . . . . 4
- 電解水生成装置一覧(2022 年度版) . . . . . 4
- 第 20 回日本機能水学会学術大会 . . . . . 4
- (公財)レイ・パストゥール医学研究センターの活動 . . . . . 5

## 機能水関連カレンダー

ifia JAPAN 2022	2022 年 5 月 18~20 日(水~金)	東京ビッグサイト(東京)
生物安全実践講習会実践コース B	2022 年 6 月 15~16 日(水~木)	iMEP(滋賀県草津市)

## < 第 23 回日本口腔機能水学会学術大会・市民公開講座 報告 >

「多角的な視点から機能水を考える」をメインテーマに、舞田健夫教授(北海道医療大学歯学部高度先進補綴学分野)が大会長となって、令和 4 年 3 月 26・27 日(土・日)の 2 日間、北海道自治労会館(札幌市)においてハイブリッド形式により開催された。参加者は、来場者が 40 名弱、WEB 参加が 60 名弱であった。

初日は、大会長の舞田健夫先生、学会長の西田哲也先生(日本大学歯学部 歯科保存学第Ⅲ講座)による開会挨拶の後、教育講演Ⅰ「コロナ禍における次亜塩素酸水をめぐる光と影」(講師:(一財)機能水研究振興財団 堀田国元)が行われた。

第 2 日は、午前に村田勝先生(北海道医療大学歯学部 口腔再生医学分野)の特別講演「酸性電解水と超音波スケーラーによる骨誘導処置」、一般口演、企業ブリーフィングが行われた。午後は、市民公開講座～ウィズコロナ生活と感染症対策～が開催され、札幌市民を含めた参加者はコロナウイルス感染対策の要諦と今後の展望について学ぶ機会となった。



次期(第 24 回)学術大会は、網中雅仁先生(くらしき作陽大学食文化学部)が大会長となって倉敷市で開催される。

## <市民公開講座：ウイズコロナ生活と感染対策>

特別講演：「次の人獣共通感染症パンデミックにどう備えるか：インフルエンザと covid-19 パンデミックの経験を活かして」  
喜田宏先生(北海道大学ユニバーシティプロフェッサー・人獣共通感染症国際共同研究所特別招聘教授統括)

講演 1：「感染対策の基礎知識」 堀田国元(機能水研究振興財団理事長・元国立感染症研究所)

講演 2：「感染対策の実践的講習会について」 本間茂(機能水研究振興財団理事)

講演 3：「歯科領域における感染対策」 佐藤勉(東海大学医学部教授・前日本口腔機能水学会理事長)



## <第 27 回日本医療・環境オゾン学会学術大会 報告>

2022 年 4 月 17 日(日)、日本薬学会長井記念ホールにおいて、約 75 名の参加者を得て 3 年ぶりに対面形式で開催された。オゾン水関連の発表は以下の通りであった。

座長 錦 善則 (デノラ・ベルメレック株式会社)

1. 「新型コロナウイルスなどの感染性呼吸器疾患の流行と大気中オゾン濃度との関係」 (9:50~10:10)

○長倉正弥、長倉正昭 (エコデザイン株式会社)、鹿子島達志 (イーグレテック)

座長 森 俊輔 (パナソニック(株)株式会社)

2. 「電解オゾン水中の溶存オゾン濃度-塩添加によるオゾン生成への影響-」 (10:10~10:30)

○岩本卓治、祖父江和治 (神奈川県立産業技術総合研究所)

座長 今津龍也 (マクセル株式会社)

3. 「SARS-CoV-2 に対するオゾン水の不活化効果検証」 (10:30~10:50)

○内藤博敬 (静岡県立農林環境専門職大学)、錦 善則 (デノラ・ベルメレック株式会社)、中室克彦 (摂南大学名誉教授)

座長 内藤博敬 (静岡県立農林環境専門職大学)

4. 「SARS-CoV-2 に対するオゾンの殺ウイルス作用における標的部位の重要性」 (10:50~11:10)

○中室克彦 (摂南大学名誉教授)、錦 善則 (デノラ・ベルメレック株式会社)、内藤博敬 (静岡県立農林環境専門職大学)

座長 市川和寛 (三友商事株式会社)

5. 「オゾン水うがいによる口腔内環境の改善-実証実験に基づいた考察-」 (11:10~11:30)

○村上 弘、加藤大輔、上野温子、宮前 真、小川明敬、村上正洋、木本 統 (愛知学院大学歯学部高齢者・在宅歯科医療学講座口腔インプラント科)、廣田 健 (ひろた歯科医院)

座長 廣田 健 (ひろた歯科医院)

6. 「歯周ポケット内細菌叢に対するオゾン水注入処置による消毒効果の位相差顕微鏡による迅速評価」 (11:30~11:50)

池田貴久子 (辻中歯科医院、(有) エイチ・エムズコレクション)



## <iifia JAPAN 2022: 機能水関連プログラム>

<https://www.ifiajapan.com/>

期日・会場: 2022年5月18~20日(水~金)@東京ビッグサイト(西1/2ホール)

展示ブース: 3073 **機能水研究振興財団・日本電解水協会**

講演

5月19日: B SDGs エリア内セッション

### ●SDGs に役立つ機能水

15:15~16:00 【基調講演】SDGs 時代における機能水の役割と展望

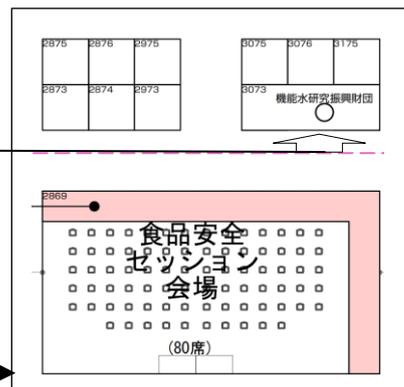
(一財)機能水研究振興財団 堀田 国元 氏

5月20日: C 安全・分析・評価エリア内セッション

### ●殺菌・洗浄セッション 14:30~16:30

次亜塩素酸水: 食品添加物殺菌料指定 20 年を記念して

- ① 【基調講演】次亜塩素酸水の 20 年を振り返り今後の 10 年を展望する (一社)日本電解水協会 金盛 幹昌 氏
- ② 次亜塩素酸水の可能性と正しい普及に向けて: (一社)日本電解水協会 石渡 幸則 氏
- ③ ダイヤモンド電極を用いたリアルタイム有効塩素濃度センサーの開発: (株)コスモテック 両角 久 氏
- ④ ウイズコロナ生活の感染対策と次亜塩素酸水: (一財)機能水研究振興財団 堀田 国元 氏



## <第 10 回国際レジオネラ会議 The 10th International Conference on Legionella>

<http://legionella2021.umin.jp/greeting.html>

会長: 館田一博先生(東邦大学医学部教授)

期日・会場: 2022年9月20~24日(火~土)・横浜はまぎんホール(横浜市みなとみらい地区)

開催形式: 新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮して、オンサイトとオンラインのハイブリッド開催。

内容: レジオネラの疫学、細菌学と宿主応答、臨床(診断、治療、感染対策)に関する研究者が一堂に会する機会。

一般演題募集締切: 6月9日正午

機能水関連シンポジウムほか: 機能水研究振興財団が連絡調整

・シンポジウム: *Legionella, Water and Biofilm: How to cope with?* (仮題) 9月24日午前(2.5~3時間)

講演者: 機能水関係2名、バイオフィルム学会関係、レジオネラ学会

・展示: 9月20~24日

### 「第 10 回 国際レジオネラ学会開催に向けて」館田一博会長の挨拶から抜粋

レジオネラ症の発見は 1976 年米国フィラデルフィアのホテルの冷却塔を原因とした集団感染にまで遡ります。その翌年には培養に成功して新しい菌種、レジオネラ属細菌が確立しました。それから 4 年後の 1981 年に本邦の第 1 例目が齋藤 厚先生により報告されました。現在では本邦で年間 2,000 例を超えるレジオネラ肺炎が報告されるようになっていますが、まだまだ見逃されているレジオネラ症が多く存在するものと考えられます。

今では重症の市中肺炎がβラクタム剤に抵抗性をであればレジオネラを鑑別するというのが臨床現場の常識となっています。特に尿中抗原検査の普及は極めて大きなインパクトを与えたといつて良いでしょう。

もう一つの重要な点は、レジオネラ菌が自然界の水系環境に広く存在しているという事実です。最初の集団感染例は冷却塔が原因でしたが、その後は噴水やシャワー、温泉、循環式浴槽やジャグジーなどに起因するレジオネラ集団感染事例が世界中で報告されています\*。

本邦は、世界に名だたる温泉文化の国として、温泉とレジオネラに関して多くの研究が行われてきました。国際レジオネラ学会では、自然界における分布、臨床疫学、分子メカニズムから病原性、さらには水系環境とレジオネラの関係まで、レジオネラをキーワードにさまざまな分野の先生方が一堂に会する貴重な機会となるものと確信しています。

\* つい最近(4月上旬)も「かんぼの宿(有馬温泉)」で2人の患者が発生し、うち一人が亡くなりました(堀田)。

## <消費者庁：クレベリンに対する改善命令>

大幸薬品のクレベリン製品の一部に対する消費者庁の措置命令(4月15日)：置き型を含むすべての製品が対象。消費者庁の措置命令の差し止めが高裁で破棄されました。これを機に消費者庁は、置き型を含むすべてのクレベリン製品に対して措置命令を下しています。 [https://www.caa.go.jp/notice/assets/representation\\_220415\\_1.pdf](https://www.caa.go.jp/notice/assets/representation_220415_1.pdf)  
効果試験の方法自体が客観性に欠けていることが指摘されています。

## <日本電解水協会「電解水ガイドライン 次亜塩素酸水編」>

## <機能水研究振興財団「電解水生成装置一覧(2022年度版)」>

(一社)日本電解水協会では、次亜塩素酸水に対する官公庁や消費者からの注目度も高いことを踏まえて、次亜塩素酸水生成装置の正しい普及をしていかなければならないとの認識に立って、『JEWА 電解水ガイドライン(次亜塩素酸水編)(電解次亜水編)』を作成しました。

生成装置の販売方法や広告物や販売用カタログ、企業のホームページの掲載内容について、「薬機法」「景品表示法」などに抵触しないようにするため、法令順守と本ガイドラインの徹底が狙いです。本ガイドラインは、会員専用ページに掲載されています。

会員各位に、法令順守および『JEWА 電解水ガイドライン』の徹底を呼び掛けています。



一方、機能水研究振興財団では、電解水(次亜塩素酸水ほか)生装置一覧の2022年度版の編集・刊行を進めています。

## <日本機能水学会第20回学術大会>

大会テーマ：『機能水の滴り、大海へ』

大会長：岩澤篤郎先生(国際医療保健大学教授)

会期：令和4年(2022年)10月1~2日(土~日)

会場：日本薬学会長井記念ホール(東京渋谷)

一般講演申込：2022年5月31日迄、<http://www.fwf.or.jp/gakujutu.html>より  
更新情報は、機能水学会 HP <http://www.fwf.or.jp/gakkai.html> をご覧ください。

1995年1月、「アクア酸化水の使用手引」の刊行に当って、アクア酸化水研究会会長の岡田淳先生(当時関東通信病院)が、「水の滴りは微なりといえども、漸く大器に満つ」と冒頭に記しています。20回を記念する大会の大会長として、「機能水の滴り、大海へ」をテーマにした理由もここにあります。

20回の記念大会を会員の皆様と盛大にお祝いしたかったのですが、コロナ禍がまだ収まりません。昨年と同様に10月1日2日渋谷にある長井記念館で現地とオンラインによるハイブリット開催を予定しています。

機能水は、電解水・次亜塩素酸水だけではなく、アルカリイオン水やオゾン水についても積極的に本学会で議論してきました。さらにその他の処理を施した機能水についても今後積極的に議論していく必要を感じています。これら機能水が幅広い分野に波及すべく、プログラム委員長の菊地憲次先生を中心とした委員会において討議し、意義深い大会にしたいと思っています。多くの会員の皆様のご参加と興味深い演題発表を心よりお待ちしております。

(大会長 岩澤篤郎)



## <ルイ・パストゥール医学研究センターの活動>

### ●機能水研究室の改称

2018年4月に新設された「機能水研究室(吉川敏一室長、菊地憲次主席研究員)は、事業活動の発展に伴って2022年4月より室名を「環境感染制御研究室」と改称し、ウイルス関係の研究者として2名(呉成旭博士、馬織宇博士)を採用した。

### ●BSL3施設の設置

ウイルスや微生物に対する次亜塩素酸水の作用について研究するための施設としてBSL3実験室を設置した。2022年度より稼働開始予定。

### ●機能水の物理化学分析実験室

高精度次亜塩素酸水生成装置、イオンクロマト質量分析装置、その他の高性能分析機器を設置し、2021年度から稼働中。

### ●公募研究(2021~2022年度)

以下の応募研究者によって次亜塩素酸水に関する各種の研究が実施されている。

松浦善治先生(大阪大学)、岩澤篤郎先生(東京医療保健大学)、石井良和先生(東邦大学)、荒川真一先生(東京医科歯科大学)、高木弘隆先生(国立感染症研究所)

### ●生物安全実践講習会: 機能水研究振興財団との共同公益事業(問合せは [kinousui-zaidan@fwf.or.jp](mailto:kinousui-zaidan@fwf.or.jp) へ)

コロナ禍により延期を余儀なくされていた以下の講習会を開催するべく準備を進めている。

#### 1. 第1回実践校一スB講習会

期日: 2022年(令和4年)6月15・16日(水・木) 2日間(終日)

会場: 医療研修施設 iMEP(ニプロ社) 滋賀県草津市(JR琵琶湖線京都駅より新快速で17分南草津駅下車徒歩3分)

対象者: 病原体や病原体汚染材料を能動的に取り扱う方、またはそれらの教育・指導に関わる人たち。

内容: 座学(感染制御概論、ウイルス感染制御法、医薬品製造・遺伝子組換え体利用の安全対策、薬剤耐性菌・食のリスクとワンヘルス、遺伝子関連検査)、実習(病原体輸送の安全対策、安全キャビネット・个人防护具の取扱い等)

#### 2. 第4回基盤コース講習会

期日: 2022年(令和4年)8月4日(木)

会場: 食品衛生センター(東京都渋谷区神宮)

対象者: 機能水関係者など病原体に関する基盤的知識を必要とする方々

募集: 2022年5月中旬開始予定。



## 新たな感染症対策の教育の場が開講! 生物安全実践講習会

この講習会は施設内感染対策の一環として、令和2年2月より新しく開始されました。法令を含め、病原体の基礎知識と取扱い技術、感染予防のための衛生管理、感染症発生後の危機管理等に関して、コース別(基盤、実践A、実践B、特別)に座学と実習が行われます。指導講師は、豊富な知識と経験を持つ現役の感染症研究者、または著名な研究機関の出身者が担当しています。



詳しくはこちら

